

— 読書（よみかき・どくしょ） —

教育長 宇野成佳

今年1月、知立市国際交流協会主催「第15回国際ワンネスフェスティバル in 知立」が開催され、外国人による日本語スピーチコンテストが行われました。参加した小学1年の児童が、「かん字はかっこいい」と題して、習い立ての漢字のかっこ良さを3点発表しました。1つ目は、漢字の「目」は、目の形からできているように、形からできているのがおもしろい。2つ目は書き順があって、覚えやすい。3つ目は、「はねる」や「はらう」のように似ている形が多いことでした。

以前にも、このスピーチコンテストで小学3年の児童が、「漢字、大好き」と題して、漢字の勉強の面白さを発表したことがあります。それは、初めて覚えた漢字「花」は、カタカナの「サ」「イ」「ヒ」を組み合わせられていて面白いこと。また、「乗」は「乗馬」では「じょう」、「馬に乗る」では「のる」と、音読みと訓読みがあって面白いことでした。

知立市には多くの外国にルーツのある方がみえ、日本語の習得に励んでいます。その中には、漢字を学ぶことを通して、日本のことや日本文化について知り、興味をもち、さらに多くのことを学んでいます。外国から来た子どもたちも、日本で生活するために日本語の「読み書き」を大切にして、自分の思いや考えを話したり書いたりしています。

「読み書き」は、学習・教育において非常に重要であり、生活する上でも基礎的な能力の一つとなります。これからの情報化社会においては、他者とのコミュニケーションを図り、情報を適切に扱うためにも必要となります。

「読み書き」の基礎基本となるのが「語彙力」です。

「語彙力」を高めるには、「読書」です。

現代は、スマートフォンの使用時間が長くなり、読書時間が減っているのは周知のごとくです。読書は、語彙力を高めるだけでなく、「読書（どくしょ）百遍（ひゃっぺん）義自（おのずか）ら見（あらわ）る」と言われるように、繰り返し熟読すれば、どんな書物でも意味が自然と分かってきます。また、読書の良さは、何度でも繰り返し読むことができます。読むことで、想像の世界を広げ、楽しみや喜び、悲しみなどの様々な思いを体感することができます。また、洞察力や探究心、集中力を高めます。自分を見つめ直す機会にもなり、生活に豊かさをもたらします。

情報化社会が進展する中、自ら必要とする情報を収集する能力、真偽を確かめる能力、情報を選択し活用する能力、自ら課題を見つける能力など、様々な生きる力を読書で得ることもできます。

知立市では、今年３月「第４次知立市子ども読書活動推進計画 ～本はともだち～」を策定しました。その一部を紹介します。

推進計画は、次世代を担う心豊かな子どもたちを育成するために、すべての子どもがあらゆる場において自主的に読書活動を行うことができる環境を整備することを目的としています。

子どもが、読書に親しむことにより、読解力や想像力、思考力、表現力などを養うとともに、多くの知識を得ること、多様な文化を理解することができるようになります。また、書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探求心や真理を求める態度が培われます。

I C T（情報通信技術）の発展に伴い、社会状況が変わっても、子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくことで欠くことのできないものです。

読書に夢中になることで心が穏やかになり、素敵な言葉に出会ったり、新しい世界への扉を開いたりすることもできます。ぜひ、知立市図書館にも足を運んでみてください。